

キャンプ砂防 2017 in 奥飛騨

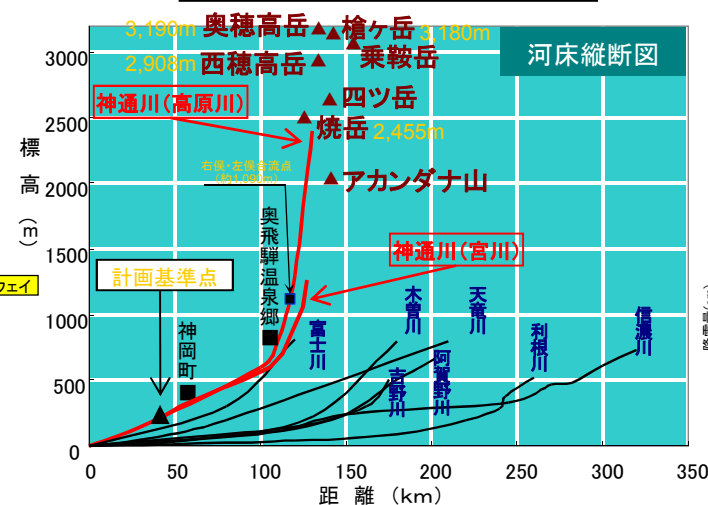
~奥飛騨の大自然のなか山間地での砂防体験学習~

自然との共生・地域の発展・飛騨の砂守100年の歴史

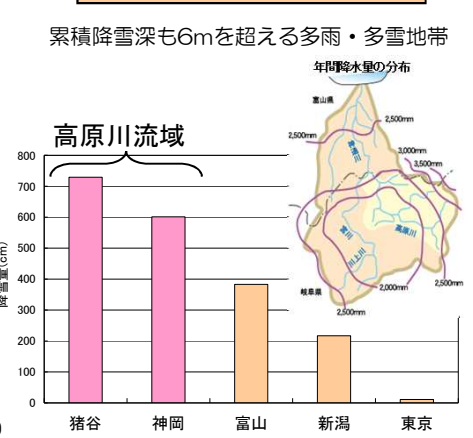
○奥飛騨地域は北アルプス連峰を中心に優れた自然環境があり、焼岳火山に起因する温泉（奥飛騨温泉郷）施設等がある全国有数の観光地です。
 ○しかしながら、高原川流域の地質は脆弱で、不安定な地質構造を呈する他、平湯川流域は火山噴出物が厚く堆積し荒廃地を形成、下流域の跡津川には、安政5年の飛越地震（M7.1）の原因である跡津川断層があり、深層崩壊の危険性が高いなど、土砂生産が著しい流域です。
 ○これら脆弱で崩れやすい地質構造に加え、急流河川という地形条件、さらには、多雨多雪地帯という気象状況も相まって、下流域に土砂が大量に流出しやすい流域特性があり、地域の発展は土砂災害との闘いの歴史でした。



世界的にも有数な急流河川群



年間降水量の分布



キャンプ砂防 2017 in 奥飛騨

～奥飛騨の大自然のなか山間地での砂防体験学習～

自然（土砂災害）との闘いの歴史

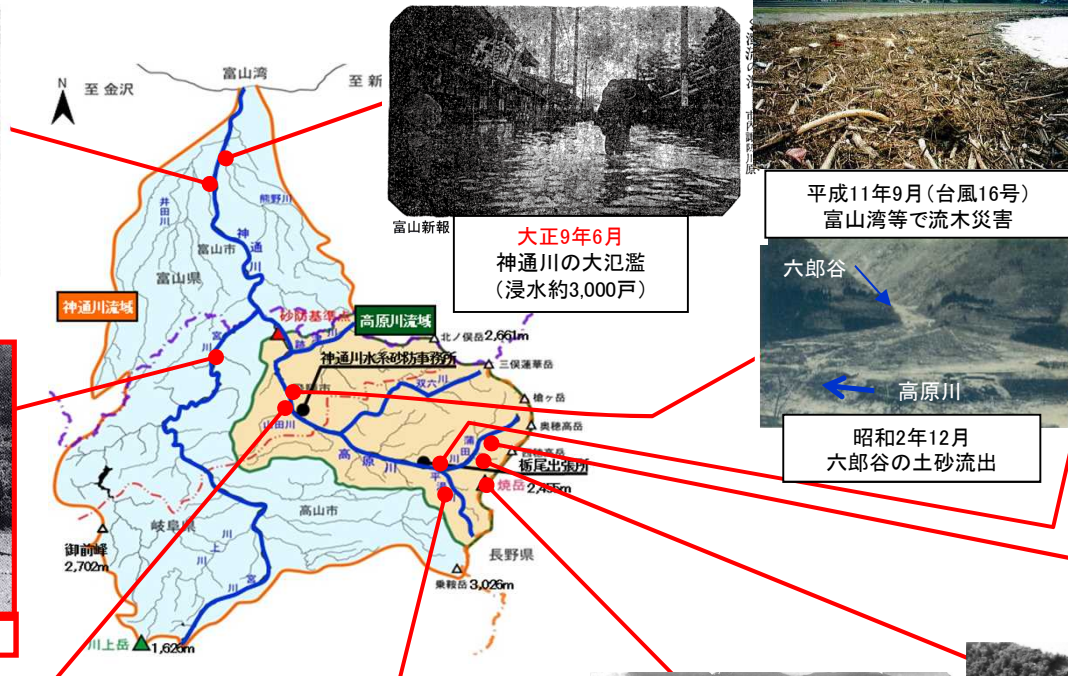
○大正3年には宮川流域の各溪流から流出した大量の土砂が川を堰き止め、村は一面湖沼化。死者36名と甚大な被害をもたらしました。

○この災害が契機となり**大正8年に宮川流域で直轄砂防事業に着手**しました。

○大正9年6月の豪雨では、上流域の蒲田温泉が土石流により流出全滅、中流域の現飛騨市神岡町や下流域の富山市街地においても甚大な被害が生じています。その後も、昭和37年には焼岳噴火の影響により足洗谷で土石流が発生する等奥飛騨地域の発展は自然との闘いの歴史でした。



昭和36年7月
冠水した建設中の富山空港



大正9年6月
神通川の大氾濫
(浸水約3,000戸)



平成11年9月(台風16号)
富山湾等で流木災害



昭和54年8月洞谷(土石流災害)
(死者・不明3名、家屋被害52戸)



昭和2年12月
六郎谷の土砂流出



大正9年 上宝村 蒲田川筋
(現高山市奥飛騨温泉郷蒲田温泉・集落ともに流出し全滅)



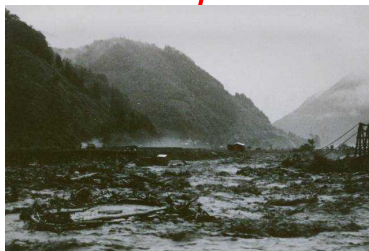
大正3年8月 宮川小豆沢の流出土砂状況



大正9年6月 船津町
(現飛騨市神岡町)東町の土砂氾濫



昭和33年7月災害 村上橋流出
(現高山市奥飛騨温泉郷)



昭和37年6月 焼岳噴火
(後の降雨で足洗谷にて土石流発生)



昭和28年7月
外ヶ谷の大崩壊で天然ダム形成



キャンプ砂防 2017 in 奥飛騨 ~奥飛騨の大自然のなか山間地での砂防体験学習~

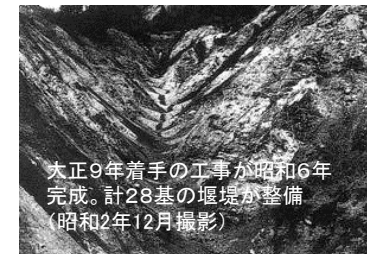
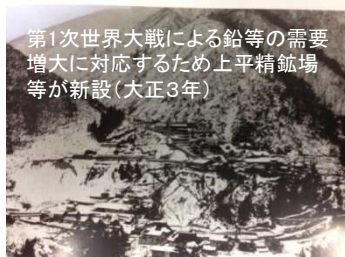
地域を支えてきた飛騨の砂守

- 災害は生命・財産を奪うだけではなく、村や町の姿までも変えてしまいます。先人達はこうした辛苦に耐え、豊かで暮らしやすい流域をつくるために住民みずから砂防工事に直接携わりました。こうした砂防事業に携わった人々を飛騨の砂守とよびます。
- 飛騨の砂守により造られた砂防設備は今なお効果を発揮しつづけ、地域の発展を支えています。



地域を支えてきた飛騨の砂守

- 六郎谷は豪雨により度々土石流が発生（明治32年には大量の土砂が流出し高原川にて天然ダム）
- 大正9年には砂防堰堤・床固工・山腹工の工事が行われ、昭和5年までの10年間で約28基の砂防堰堤が施工。
- 神岡鉱山は昭和初期に銀・鉛・亜鉛の生産全国1位を誇り日本経済の発展を担うとともに、地域の発展を担った。
- 現在の六郎谷は砂防堰堤がわずかに見える程に緑が回復し神岡町と下流域を土石流災害から守っている。



キャンプ砂防 2017 in 奥飛騨

～奥飛騨の大自然のなか山間地での砂防体験学習～

地域経済活動の進展

○かつては、出水のたびに土砂が流出し氾濫。砂防事業の進展に伴い土砂の流出が抑制され河道が安定。日本有数の温泉観光地「奥飛騨温泉郷」に発展。
○砂防施設周辺は、地域住民と協働で維持管理され、観光協会による四季を通じたイベントに活用される。

昭和22年頃の状況



現在の状況



たから流路工周辺でのイベント

新穂高紅葉散策～夜空を楽しむ会



新穂高ロープウェイ



栢尾温泉「荒神の湯」



新穂高の湯「新穂高温泉」



Rail-MTB「Gattan-Go!!」

砂防事業が支えてきた豊かな自然の恵み、
地域発展、そして砂防事業を支える
飛騨の砂守について体験して学んで頂きます。